

平成26年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

- 1 日時 平成26年11月19日(水) 午前10時～
- 2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)
- 3 出席者(敬称略)
- (委員) 飯野奈津子、柿嶋美保子、齊藤洋子、篠原春子、田中倭子、
谷口一夫、堀内邦満、三井久美子、望月立弥 9名
 - (事務局) 萩原館長、渡邊副館長、出月次長、村石学芸課長、総務課員2名
 - (教育庁) 三井学術文化財課総括課長補佐、学術文化財課職員1名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 事務局職員等紹介
- (4) 正副会長選出
- (5) 議事
- (6) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成26年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成26年度考古博物館予定事業について
- (3) その他

6 議事の概要

(委員)

幅広く活動していることがよくわかる。ただし、11月22日の古墳シンポジウム開催など、果たしてどこまで県民の皆さんに伝わっているのかは疑問。上手に広報を行っていただきたい。

(事務局)

発信力が弱いことは館としても認識している。県庁の記者クラブ、マスコミ各社へのFAXは発信してはいるものの、更に魅力あるイベントにしていく必要がある。広報の課題については今後も取り組みを進めて参りたい。

(委員)

イベントなど、非常にきめ細かくやっていることに感謝している。テレビやラジオなど、メディアの影響というのは極めて大きいもの。当協議会においても、NHKの局長さんにも出席いただいているので、是非番組内で宣伝をしていただきたい。

一つ確認したいことがある。以前ものづくり教室は参加費を徴収せず、無料で開催していたと記憶しているが、最近では100円や200円程度必要である。制度が変わったのか。

(事務局)

ものづくり教室等の講座の中には、材料費をいただいているものがある。ここ数年、特に他

の博物館では扱わないグレードの高いものづくり教室に挑戦しており、博物館の限られた運営費の中で対応できないものもある。これらは事前に材料費が必要なことを周知した上でご参加をいただいているものである。

また、従前は観覧料を徴していた県外の小中高生の観覧が無料となったことなどから、多少お金を出しても子供に良い経験をさせたいといった要望もある。

(委員)

高校の代表であるが、生徒たちへは夏休み前に、是非考古博物館へ足を運ぶよう伝えた。しかし実績を見る限り数字が伸びていないようであるので、来年はもっと早くから生徒たちへ周知したい。

山梨のよいところを是非子供に学ばせたいと思っている。縄文土器は全国的にも山梨が一番なのではと思う。高校生になると体験講座はなかなか参加しづらいものではあるが、職場体験など実習については是非続けていただきたい。

(事務局)

PRの問題について、インターネットではたくさんPRをしてはいるものの、その環境のない人もいるわけであり、工夫をしていかなければならない。メディアを使ってうまくPRしていきたい。

前回の協議会にて開催事業が多いという指摘があったが、例えば銅鐸づくりなどは定員を10人くらいに絞らなければならないが、全国の博物館ではほとんど行っていないため、とても特色ある人気事業となっている。イベントの効果を検証し、来年度以降は事業に強弱をつけていきたい。

高校生の問題であるが、考古博物館は小中学生の利用は多いのだが、高校生大学生の利用が非常に少ない。若い世代をどう取り込むかが課題。

(委員)

現在の学芸員の体制はどうなっているのか。

(事務局)

実働体制としては学芸課長の下、学芸員が2名、その他に4名の非常勤、臨時職員で対応している。

(委員)

その人数ではやはり事業数が多いと感じる。集約化した方が良い。

(委員)

この館ができた頃、私の子供は小学生であった。家が近いため、多くのイベントに参加させてもらった。風土記の丘のステージで中秋の名月を眺めるイベントがあり、非常に感動した記憶がある。火起こし体験など、子どもたちはとても楽しかったと言って帰ってくる。もっと身近なものとして欲しい。

(委員)

地元であるが、こんなにも多くの事業を開催していたのかと感謝している。

私は農業をやっているため東京などから学生を集め、考古博物館の見学と農業体験のセットというイベントを企画したことがあるが、子どもたちはとても喜んだ。

また、海外の方を古墳に案内したことがあるが、言葉の問題から説明ができず、残念な思いをしたことがある。公園に英語の説明があるとよいと感じている。

立地の面で、甲府南ICのすぐ側であり、県外あるいは国外の方も多く出入りしているため、もっとその方々をターゲットにしてもよいのでは。

(委員)

小中学校の代表であるが、前回の協議会の際にいただいた常設展の図録がとても素晴らしいものであった。お金のかかる話ではあるが、例えば小学6年生全員に配布し、一人一冊持っていても良いほどである。

また、学校の利用実績で県外の学校が多いのは嬉しいことである。一方で、それ以上に県内の学校の利用を伸ばすためには「足」の確保が欠かせない。前回協議会でも議論があったが、学校サイドからすれば、遠足などの機会を捉えてしか来られないという課題がある。

昔は畑で土器を見つけたものである。山梨の人は、身近すぎてその価値に気づいていない。山梨が生き残るため、観光資源として「縄文文化」をアピールしても良いのでは。

(委員)

今年度から館長講座が始まった。どんな方々が参加しているか。もっとPRしてもよいのでは。

(事務局)

今年度に入り急遽開催を決定したため、周知が徹底されていないと感じるが、出席者は考古学・歴史学の常連ではなく、新しい人が多い。歴史の好きな方々は数多いため、さらに講座のバラエティーを増やしていきたい。

山梨の縄文土器は外から非常に注目されている。土器のセンスが良いという評判であり、今後も更に売り出していきたい。その第1歩として来年度の特別展は縄文をテーマに開催予定である。

また、先ほど図録を児童一人一人にどうかというご意見をいただいた。非常に素晴らしいご意見であるが、予算が必要となる。検討をさせていただきたい。

また、前回もご意見をいただいたが、足、いわゆるバスの問題については認識している。

(事務局)

委員の先生方にも、是非来年度の事業について各分野でPRをお願いしたい。

また、先ほど英語表示というご意見があったが、東京オリンピックもあり、施設の外国語表示は全庁的な課題となっている。

(委員)

外国語表示については、英語だけでなく、中国語の表示もあった方がよいのでは。

(教育庁)

外国語表記については全庁的な課題であり、どのような姿が望ましいのか、検討して参る。

(委員)

道徳の授業なども活用し、縄文文化の素晴らしさを伝えて欲しい。

(委員)

新潟にて恐竜の化石を発掘するイベントがあったが、大好評であった。子どもたちは自ら掘ると興味をもつ。小学校高学年くらいを対象に調査発掘ができる場所があるとよいのだが。

(事務局)

発掘については埋蔵文化財センターの所管になるが、夏休みに体験会を開催している。回数に限りがあるため、状況が許す限りは今後も機会を設けて参りたい。

- 以 上 -